

借換事業計画書（経営改善計画）

年 月 日

住 所 _____

事業者名 _____

代表者名 _____

1 対象要件の確認

直近6カ月または1年間の営業利益等（営業利益+減価償却費）をコロナ禍前と比較し、20%以上減少していること（C 20%）

	直近期（ 年） 1年 / 6カ月	コロナ禍前（ 年） 1年 / 6カ月	減少率 (B - A) ÷ B
営業利益			
減価償却費			
計（営業利益等）	A	B	C %

Bの値が負（マイナス）の場合は、負の値が増加し、かつ下記売上高の減少率が20%以上であること。

	直近期（ 年）	コロナ禍前（ 年）	減少率 (b - a) ÷ b
売上高	a	b	c %

営業利益は「損益計算書」の「営業利益金額」を記入する。
減価償却費は「販売費及び一般管理費」及び「製造原価報告書」の減価償却費を記入する。
直近期とコロナ禍前の期の ・ からそれぞれA・Bを算出し減少率Cを算出する。ただし、Bの値が負（マイナス）の場合は、「損益計算書」の「売上高」をa・b記入し、減少率cを算出する。

2 借換申込の内容（本融資により借り換える既往の区融資の状況を記入してください。）

	金融機関名 紹介番号	借入日 保証番号	当初借入額 (千円)	現在残高 (千円)	月返済額 (円)	最終償還日
既往借入金		年 月 日				年 月 日
		年 月 日				年 月 日
		年 月 日				年 月 日
		年 月 日				年 月 日
	小計					
増額借入希望額						
借換申込額（ + ）						年 月 日

今回の借換融資の対象とする区融資の内容を記入し、現在残高の小計を算出し に記入する。
の金額に追加して必要とする運転資金の金額を に記入し、 + の合計を借換申込額とし に記入する。ただし、 の小計×120%までとし、2,600万円を上限とする。

3 コロナ借換資金融資を利用するに至った経緯

借換融資を利用する経緯（経営状況が回復しない理由等）を簡潔にまとめ記入
「コロナ感染症の長期化により販売促進イベントが開催されず、売上高がコロナ禍前から年々減少し、融資の実行時の返済計画が履行できないため、各融資を一本化し返済計画を見直し経営状況を立て直すため。」など

4 収益改善に向けた今後の計画（経営改善計画）

売上・受注の増加を図るための取組み

収益性の向上を図るための取組み

その他の取組み

業績の推移と今後の収支計画

（千円）

	コロナ感染 拡大前の期	直近期	計画1期目	計画2期目	計画3期目
売上高					
売上原価					
(減価償却費)					
売上総利益					
販売管理費					
(人件費)					
(減価償却費)					
(その他)					
営業利益					
営業外損益					
経常利益					
当期利益					
キャッシュフロー + +					
債務残高					
本件融資残高					

認定経営革新等支援機関と策定した経営改善計画から、左記3点について具体的に記入する。

売上・受注の増加を図るための取組み

例：顧客・販路等を拡大するための取組みとして、ネットショップの開設や展示会への出店 など

収益性の向上を図るための取組み

例：製造原価・コストを削減するための取組みとして、製造ラインの集約化や在庫管理の厳格化 など
その他の取組み

例：固定費を削減する取組みとして、従業員賃金の業績連動化や業務量に即した期間雇用の活用、水道
光熱費削減のためLED照明の導入や設備のインバーター化 など

「コロナ感染拡大前の期」と「直近期」は決算書の「損益計算書」及び「販売費及び一般管理費」
(一部「製造原価報告書」)から転記する。

計画1～3期の各項目は、経営改善計画から見込まれる金額を記入する。

この経営改善計画は、申込人の金融正常化に寄与し、かつ事業経営に利益となるもので、
当 _____ では今後とも積極的に支援していく方針です。

認定経営革新等支援機関（支援機関ID） _____ （ _____ ）

代表者名 _____

担当者名 _____

連絡先 _____ （ _____ ）

認定経営革新等支援機関が経営改善計画等に関与した証明として、各項目を記入する（押印不要）。